

二〇一四・劈頭の想念

協働司祭 葛島輝義

未明の空から降った軌跡は二〇一四年のあけぼの。日照時間が最も短くなる冬至の後に、春に向かう太陽がだんだん地球の夜を照らし、明るくしていく。先人たちはこの美しい自然現象を見て、そこに希望を重ね合わせて、新年を歩むことを味わったのでしよう。正月は長くて深い夜を営んで来た人たちの歓喜の季節。今年も共にこの豊かさに与えられたことを幸いに思います。

協働司祭として福江に身を置いて間もなく二年。がたの来た臓器を撫でつつ、福江と久賀を往来する時間を埋めています。かつて、命を授り、信仰を育まれた地に、今や司祭として立ち、かつて、教師として命を賭けた地に、今や司祭として立つ。日に三度のミサを捧げることがあったり、週に四度五度、時には未明・晩・時化に海を渡ることがあったり…。遠い季節から紡いで来た一つひとつの光景が、逆光の中で照らし出されるのを観ます。単なる雇われ司祭ではなかったはずですが、あるべき姿からは凡そ遠い者になっている

きらいがあります。

そのような中であって、二〇一四年という新しい年は、日本・世界、何よりも福江教会の信仰者の新しい意識の気づきが加速することになるでしょう。大火・洪水・台風：幾多の試練を乗り越えて来た福江。四月には、この地に信仰共同体が誕生して一〇〇周年という広大なステージが待っています。最早、寛容さと忍耐を必要とする時代が始まっているようです。「あなたがたは世の光である」(マタイ5・14)イエス様は私たちをそう促します。多様化し、複雑化する時代の中で、信仰をもって生き抜くには知恵も要る。誠実と知恵によって正直に生きる恵みを分かち合い、この地のあけぼのとなりたいたいものです。

冬至から米一粒ほどに日が延びていく新年。この二〇一四年の希望に富むあけぼのが日毎に増大し、皆様の生の営みを明るく照らすよう、今年もここにささやかな祈りをささげる者です。

今年もよろしく願います

助任司祭 野濱達也

福江教会の信徒の皆様、新年明けましておめでとうございます。

気が付けば、2013年もあっという間に過ぎ去り、福江教会に来て2年近くが過ぎ去ろうとし、ただただ、時の流れの速さを感じる今日この頃でございます。この期間、どれだけの事が福江教会でできたのだろうか、信徒の皆様のできることはできたのだろうか、力になることはできたのだろうか、もっとできることはあったのではないだろうか、などいろいろなことを自問自答し、己のふがいなさや未熟さ、力不足を痛感させられます。それでも、支え祈ってください。それでも、支え祈ってください。さる方々のおかげで今の自分があり、「どんなことにも感謝しなさい」という御言葉を胸に、毎日に感謝し、司祭職を全うしてまいりたいと思います。

さて、今年も福江教会にとって、小教区設立100周年の記念の年であります。100年という福江教会の長い歴史の一部に加わることで、私自身も大変光栄に思っております。この100年間、多くの先人たちが、教会を守り、信仰を伝えてきました。「信仰を受け継ぎ、伝える」というスローガンが教会に掲げられています。まさに、今度は私たちがこの信仰を守り、伝えていかなければなりません。

少子高齢化による若者の減少、

信徒の減少、今後の教会が抱える問題はたくさんあり、決して楽な道ではないでしょう。100周年という節目をきっかけに、今まで以上に一致してよりよい共同体を築きあげてまいりましょう。

良き100周年となるように、そして今後益々の福江教会の発展を願って皆で協力していきましょう。今年もよろしく願います。

追悼ミサ

11月死者の月にあたり、霧ヶ丘追悼ミサが行われた。

今年はいくの雨になってしまいい、教会聖堂内での追悼ミサになり、急きよ変更になったにも係らず40人ほど参加した。

ミサの中で、「普通の人間は完全に清い体で神の前に立てる人はいない。煉獄の清めにあつてはいる人達のために一緒に祈りましょう」と下口神父様は言われた。

この日中止になっていた墓地清掃は後日行われた。



牢屋の窄殉教祭



去る一〇月二七日、牢屋の窄殉教祭が久賀島の殉教地にて行われた。

後に五島崩れと呼ばれる迫害のきっかけとなった牢屋の窄の拷問があつてから、今年で一四五年目。下五島の各小教区から二〇〇名以上の信徒が殉教地に集まった。福江小教区からは、五〇名程が参加した。

ロザリオが唱えられ、祈念碑の碑文朗読と殉教者への献花の後、ミサが執り行われた。ミサの説教

では下口神父様より殉教跡地に記念聖堂、祈念碑等の整備が行われた歴史が紹介され、殉教者の強い信仰心はもちろん、その信仰心が代々受け継がれ、誇り高き我が先人を決して忘れないという思いを強く感じる説教であつた。信仰年の終盤で迎えた今年の殉教祭は信仰生活のあり方や、信仰そのものについて考えさせられるものとなつた。

棄教を迫られ、苦しい拷問を受けても教えを棄てなかつた四二名の殉教者たち。その深い信仰を讃える祈りと賛美歌が、秋晴れの中殉教の地にこだました。



下五島地区

合同堅信式

去る一月一九日(日) 一時より下五島地区合同堅信式が福江教会で行われた。

全小教区合同での堅信式になって今年で四年目。当日は堅信式を祝うかのような快晴の下、教会境内にて高見大司教様を迎え、その後堅信式ミサが執り行われた。

全体で二〇名の受堅者のうち、福江教会からは十二名であつた。受堅者は家族や多くの信徒に見守られ、洗礼の更新をした後、堅信の儀で御父の賜である聖霊を受けた。

高見大司教様より受堅者に対し「洗礼の恵みを強め高めてゆく大切な堅信式を通して信仰心を新たにする機会として欲しい。神様の愛を深くする、強める努力をして欲しい。」とお言葉があつた。

堅信式の後、大司教様への感謝式があり受堅者を代表して三井楽小教区の山中さんよりお礼の言葉が述べられた。



クリスマスミサ

十二月二十四日(火) 周りは、暗くなった教会にはたくさんの方が集まり、クリスマスのミサが行われました。

照明が消された教会の中で子供達の聖歌が始まった。

御子様の御像を抱いた神父様が、教会の中を進み準備された馬小屋の中に置かれた。静かな中、たくさんの方が一緒に主の降誕のミサにあずかり、喜びを分かち合った。

ミサの前に、中学生の子供達を中心にクリスマス募金も行われ、皆様の心を伝えるお手伝いが出来た。



この時に集められた金額は、一八三、五二六円でカリタスジャパンを通してフィリピンの台風被災者支援などに送られるとのことでした。ともに、キリストの降誕を祝うために使われると良いですね。



《香典返し》御礼

○谷口サエ様
故ラウレンシオ谷口正男様

右記の方から香典返しに代え、ご芳志を賜りました。

お礼をご報告申し上げますと共に、故人の永遠の安息を心からお祈り申し上げます。

信仰年記念講演会

十一月一日、下五島地区信仰年記念講演会が福江教会にて行われた。



聖堂内には各教区の信徒や聖職者約二〇〇名程が集まった。講師は長崎教区の古巣馨神父様。演題は「いま、降りていく人へ ユスト高山右近という生き方」であった。

キリシタン大名高山右近の生涯についてキリスト教伝来から解説し、異国の地マニラで死去するまでの丁寧な紹介があった。多才、有能な領主であった右近はその地位や財産を放棄して福音に忠実に生きた人物であった。日本司教団として右近の列福運動が推進されており、二〇一五年の逝去四〇〇周年に合わせて列福されることを目指しているとのことだった。

今回の講演で、信仰年をきっかけ

にキリスト信者として現代の我々はどう生きていったらよいのか考える中で何かヒントを与えてくれたのではないかと感じた有意義な講演会だった。

講演会に行けなかった方、高山右近について興味のある方へ、古巣神父様が大阪にて同様の講演をされているビデオがインターネットにて閲覧出来ます。

高山右近列福祈願のつどい

特別講演「捨ててこそ」

―イエスの福音とユスト高山右近―

講師：古巣馨 神父（長崎教区）

<http://osakatitury.jp/?proc=japanese>
<http://seishinbbslash20130203>

編集後記

今年最初の「こころ」の発行となりました。厳しい寒さが続きインフルエンザや、ノロウイルスが流行していますが皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年も、役に立つ情報と教行事やお知らせなど、信者の皆様の幅広い層に亘る信仰の思いを紹介していきたいと思しますので、宜しくお願いたします。